

令和 5 年 10 月
水 産 庁

みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第 30 回年次会合の結果について

1 CCSBT（みなみまぐろ保存委員会）

ミナミマグロの持続的利用を目的とする国際機関。

メンバーは日本、豪州、ニュージーランド、韓国、台湾、インドネシア、南アフリカ、EU の 8 か国・地域。但し、EU は今回欠席。

その他、セيشェル、関係する国際機関及び NGO 等がオブザーバーとして参加。

2 日時・場所

令和 5 年 10 月 9 日（月）から 12 日（木）まで釜山（韓国）で開催。

3 我が国出席者

川島水産庁資源管理部参事官（我が国代表）ほか、水産庁、外務省、水産資源研究所及び業界の関係者。

4 結果

（1）ミナミマグロの総漁獲可能量（TAC）

科学委員会からの勧告に従い、令和 6 年（2024 年）から令和 8 年（2026 年）までの毎漁期の TAC を現在から 3,000 トン増加の 20,647 トンとすることが合意された。

（2）ミナミマグロの国別配分

令和 6 年（2024 年）から令和 8（2026 年）までの毎漁期の国別配分は表のとおり合意され、我が国の配分は現在から 1,050 トン増の 7,295 トンとなった。

（3）次回年次会合

次回年次会合は、令和 6 年（2024 年）10 月に台湾で開催される予定。

[表] 2024 年～2026 年における総漁獲可能量及び国別配分

	2024-26 年	(参考) 2021-23 年
日本	7, 295t (※ 1)	6, 245 t (※ 1)
豪州	7, 295t	6, 245 t (※ 2)
韓国	1, 468t	1, 257 t
台湾	1, 468t	1, 257 t
インドネシア	1, 315t	1, 095 t
NZ	1, 288t	1, 102 t
南アフリカ	500t	428 t
E U	13t	11 t
調査漁獲枠	6t	6 t
合計	20, 647 t	17, 647 t

※ 1 : 我が国から、インドネシアに 21 トン、南アフリカに 27 トンが毎年移譲される。

※ 2 : 豪州から、7 トンがインドネシアに毎年移譲される。